

## 第4学年音楽科学習指導案

日時	平成16年9月22日(水)5校時
児童	宮古市立千徳小学校4年1組 男子13名 女子12名 計25名
場所	第1音楽室
指導者	安保 小枝子

### 1 題材名 様子を思いうかべて

### 2 題材について

#### (1) 題材について

この題材は主に学習指導要領のA表現3「歌い方や楽器の演奏の仕方を身に付けるようにする。」のイ「音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること。」、(2)「曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。」のA「歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫すること」、B鑑賞(1)「音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取るようにする。」のイ「主な旋律の反復や変化、副次的な旋律、音楽を特徴付けている要素に気を付けて聴くこと。」に関わっている。

本題材では、曲想の変化を感じ取ったり楽曲を特徴付けている要素を感じ取ったりすることで音楽の楽しさを味わい、活動への意欲が高まるようにしたい。また具体的な場面の様子や歌詞の内容から情景を思い浮かべることで、主体的に曲想をとらえて表現を工夫するようにしたいと考え、本題材を設定した。

教材には「動物の謝肉祭」、「ネバーエンディングストーリー」、「茶色の小びん」、「つるのおん返し」を設定した。「動物の謝肉祭」は多様な動物の特徴を音楽を通してとらえることができる。「ネバーエンディングストーリー」はファンタジーの世界を少年が冒険する映画で、児童が興味をもって学習できるものとする。オーケストラの演奏が情景や登場人物の心情などと一致しているため、特徴的な場面を選び、部分的に扱いたい。「茶色の小びん」は八長調なので楽器の演奏がしやすい旋律である。教科書で扱われている合奏譜は各パートの役割が明確で、グループ活動を展開しやすい。また、いろいろな場面を設定して曲想を変化させるなどの多様な学習が可能な曲である。「つるのおん返し」は日本の昔話を題材にした曲である。旋律もイ音を基音とした日旋風な音構成でまとめられている。フレーズごとに辺りの様子や登場人物の気持ちを想像することが容易にできるので、歌い方を工夫できると考える。

#### (2) 児童の実態

元気に返事をして活発に発言する男子に対して女子は人前で表現することが苦手な児童が多い。全体的に音楽を好み学年合唱や朝の会では口を大きく開けて美しい響きをめざして歌っている。1学期の「ふしの感じをいかして」ではとんぴの様子を想像したり旋律の特徴を考えたりして表現の工夫を考えたが、工夫したことを音として実現することが難しく、自分達で演奏を工夫するところまでは至らなかった。一方、ふしの感じが違う曲を聴いて図や言葉で特徴を表したりリコーダーでレガートやスタッカートの違いを意識して演奏したりすることはできた。2学期のオリエンテーションでは音楽室にある楽器を使っていろいろな音を出して遊ぶ体験をしている。音楽の学習の進め方としては場面の様子を想像したり曲想の変化を感じ取ったりすることができ、工夫の観点である音楽の要素についても理解しているが、音楽の要素と曲のイメージを結びつけて考えることは十分とは言えない。

#### (3) 指導にあたって

本題材ではまず「動物の謝肉祭」で動物当てクイズをしたい。ゲーム感覚で楽しみながら、動物を予想した理由を発表し合い、映像が無くても動物の特徴や様子がわかるという音楽の魅力に感動させたい。同時に、強弱や速度、音色の変化によって音楽が特徴付けられることに気付かせたい。次に映画「ネバーエンディングストーリー」の映像だけを鑑賞し、挿入曲はどんな曲想がふさわしいのかを話し合ってから音楽と映像を組み合わせて聴かせる。音楽と映像がぴったり合うことを感じさせ、自らも場面に合った音楽を表現したいという意欲をもたせたい。「茶色の小びん」ではグループごとに教師が提示したテーマを選択して、場面に合った曲想を考えさせる。「動物の謝肉祭」で学習した強弱や速度、音色に着目して表現を工夫させたい。練習に当たっては音や演奏の仕方が場面に合っているかどうかを常に判断させたいと考える。演奏技能に差はあるが、グループごとに教え合ったり役割

分担を工夫したりして、どの児童にも演奏に参加する喜びを味わわせたい。演奏を発表し合った後、同じ曲でも演奏の仕方ですり浮かぶ様子が異なることをまとめる。さらに教師の範奏によって多様な表現の仕方があることに気付き、次時からの意欲に結び付くものとする。「つるのおん返し」では一つ一つの言葉の意味や歌詞全体の内容を考えて場面の様子や登場人物の気持ちを思い浮かべると同時に、「茶色の小びん」で学習した表現の工夫を生かしながら歌い方を工夫させたい。

### 3 題材の目標

- (1) 音楽の特徴をつかんで、様子を想像しながら聴いたり表現しようとしたりする。(関心・意欲・態度)
- (2) 曲の気分を感じ取り、場面に合った表現の仕方を工夫する。(感受・表現の工夫)
- (3) 場面に合う強弱や速度や音色を考えて楽器を演奏したり歌ったりする。(表現の技能)
- (4) 曲想を感じ取って、場面を豊かに想像しながら聴く。(鑑賞の能力)

### 4 観点別評価規準表

観点	評価規準	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する児童への支援(C)
関心・意欲・態度	音楽の特徴をつかんで、様子を想像しながら聴いたり表現しようとしているか。	音楽の特徴をつかんで、様子を想像しながら進んで聴いたり表現しようとしている。	音楽の特徴をつかんで、様子を想像しながら聴いたり表現しようとしている。	・音楽の特徴を動物の動きや様子、自然の情景などにおきかえてとらえさせる。児童の特性によっては身体表現や図も取り入れる。
感受・表現の工夫	曲の気分を感じ取り、場面に合った強弱や速度や音色を考え、工夫しているか。	曲の気分を感じ取り、場面に合った曲想ができるまで強弱や速度や音色について工夫を繰り返すことができる。	曲の気分を感じ取り、場面に合った強弱や速度や音色について工夫することができる。	・強弱や速度や音色を一つ一つ取り上げて考えさせる。 ・対照的な範奏によりどちらの演奏がよいか選択させる。
表現の技能	場面に合う強弱や速度や音色を考えて楽器を演奏したり歌ったりすることができるか。	場面に合う強弱や速度や音色について自分の考えを発表し、工夫点を生かして楽器を演奏したり歌ったりすることができる。	場面に合う強弱や速度や音色について話し合ったことに気を付けて、楽器を演奏したり歌ったりすることができる。	・班練習で役割を明確にさせ、リーダーの指示を工夫させる。 ・簡単な旋律に直したり奏法について指導したりする。
鑑賞の能力	曲想を感じ取って、場面を豊かに想像しながら聴いているか。	音楽の要素に着目して曲想をつかみ、想像した様子を具体的にカードに書いたり発言したりしている。	鑑賞曲や友達の演奏を聴いて曲想をつかみ、想像した様子をカードに書いたり発言したりしている。	・対照的な曲を比べて音楽の要素を比較させる。 ・音楽の要素をカードで示し、毎時間繰り返して活用させる。



## 6 本時の指導

### (1) 目標

- ・場面に合った強弱や速度や音色を考え、工夫することができる。 (感受・表現の工夫)
- ・表現について工夫したことに気を付けて、楽器を演奏することができる。 (表現の技能)

### (2) 評価規準

観点	評価規準	十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要する児童への支援(C)
感受・表現の工夫	場面に合った強弱や速度や音色を考え、工夫しているか。	曲の気分を感じ取り、友達や自分達の演奏について場面に合った強弱や速度や音色かどうか感想や意見を発表して、表現を工夫することができる。	曲の気分を感じ取り、友達や自分達の演奏について場面に合った強弱や速度や音色かどうか感想をもって、表現を工夫することができる。	・強弱や速度や音色を一つ一つ取り上げて考えさせる。 ・リーダーを中心に全員が発言できるように進行させる。
表現の技能	表現について工夫したことに気を付けて、楽器を演奏することができるか。	表現について工夫したことを生かして、相手に伝わるように楽器を演奏することができる。	表現について工夫したことに気を付けて、楽器を演奏することができる。	・めざす演奏を実現するための奏法を指導する。

### (3) 展開

学習の流れ	学習活動	予想される児童の反応	指導上の留意点	評価
1 既習曲の演奏を聴く。(5分)	「茶色の小びん」を場面 A,B,C から1グループずつ代表で発表し、場面の様子が思い浮かぶかどうかを聴き合う。	・雨が降っている感じはするが、葉っぱの上で踊っている感じは伝わらないので、もっと速くすればいいと思う。 ・優しい感じはするが木々や草が気持ちよさそうな感じはしないので、もっとレガートに演奏すればいいと思う。 ・堂々とした感じが伝わらないので、主旋律を強くすればいいと思う。	・発表グループには演奏前に工夫の観点を発表させる。 ・工夫の観点を生かして演奏しているか、場面の様子が伝わるか気を付けて聴かせる。	
2 課題を設定する。(5分)	様子が思いうかぶように演奏を工夫しよう。		・発表していないグループは、発表したグループと比較して感じたことや、前時の振り返りを基に課題意識をもつようにさせる。	
3 見通しをもつ。(5分)	自分達の演奏で工夫が必要な観点と練習方法を考える。	・もっとゆっくり演奏するために、リーダーの手拍子に合わせて練習すればいいと思う。 ・もっとレガートに演奏するために息を切らないようにするといいと思う。	・課題として挙げられた工夫の観点を実現するために奏法や練習方法を考えさせる。 ・技能面において児童が考え付かない場合は、教師が助言する。	

<p>4 練習をする。 (15分)</p>	<p>グループごとに感想を出し合い、課題を明確にして練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 踊る感じを出すためにもっと音を切ってスタッカートにしたらいいと思う。</li> <li>・ 堂々とした感じにするために、一オクターブ低くした方がいいと思う。</li> </ul>	<p>場面に合った強弱や速度や音色を考え、工夫しているか。</p> <p>表現について工夫したことに気を付けて、楽器を演奏することができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーを中心に全員が発言できるように進行させる。</li> <li>・ 強弱や速度など工夫の観点を一つ一つ取り上げて考えさせる。</li> <li>・ めざす演奏を実現するための奏法を指導する。</li> <li>・ グループの課題に沿って場面に合った曲想に近づけるように練習させる。</li> </ul>
<p>5 練習を振り返る。 (10分)</p>	<p>自分達のグループが工夫の観点到気を付けて演奏できたか、場面に合った曲想に近づけたかを振り返り、カードに記入する。</p> <p>初めに演奏した代表グループの演奏を聴いて、工夫の観点到気を付けて演奏できたか、場面に合った曲想に近づけたかを振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループの課題を意識させたり授業の初めの演奏と比較させたりして成果をとらえさせる。</li> <li>・ 代表グループと同じ場面のグループの感想も紹介する。</li> </ul>
<p>6 学習のまとめをする。 (5分)</p>	<p>練習の成果を確認し、場面に合った曲想にするために有効だった工夫の観点到練習方法をまとめ、次の発表に対する意欲をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に対する取り組みと練習の成果についてまとめる。</li> </ul>